

支 | 部 | だ | よ | り |

広島・山口・島根支部合同セミナー開催報告

広島支部 猪原 光
2017年10月1日(日)福山市歯科医師会館にて、標記のセミナーが開催されました(参加者54名)。皆木省吾先生(岡山大学大学院咬合・有床義歯補綴学教授)より「在宅義歯難症例を噛める義歯にするマニュアルの対処法」と題してご講演いただきました。諸家乱立する義歯治療理論ですが、先生は治療を成功に導く方法について要介護高齢者にターゲットを絞ってわかりやすく示されました。質疑応答も活発に行われ、たいへん有意義なセミナーになりました。



講師の皆木省吾先生(左から3番目)・スタッフ一同

一般社団法人TOUCH代表理事 館村 卓先生には「3つのキーフレーズで考える摂食嚥下障害への対応」について、奥州市国保衣川歯科診療所の佐々木勝忠先生には「医科歯科連携で歯科ができること」についてご講演いただきました。

また、「義歯を通して多職種連携を考える」というテーマでディスカッションを行いました。地域包括ケアシステムの実践に向けたセミナーでした。



上段左：館村 卓先生
上段右：佐々木勝忠先生
下段：ディスカッションの様子

岡山支部共催セミナー 「病院歯科介護研究会 第20回総会・学術講演会」開催報告

岡山支部 澤田弘一
岡山支部は、共催として参加者139名を迎えて、「病院歯科介護研究会 第20回総会・学術講演会」を、2017年10月15日(日)国際交流センター(岡山市)において開催しました。「対人援助論は歯科医療者を援助するか」と題した村田久行先生(京都ノートルダム女子大学名誉教授/対人援助・スピリチュアルケア研究会理事長)のご講演を、木村章彦先生(鳥取医療生協鹿野温泉病院病院長)の座長のもとで行いました。次に「アウトリーチしていますか?~これから求められる歯科医療~」と題した渡辺俊介先生(国際医療福祉大学大学院教授)のご講演、「疾患別対応 アルツハイマー型認知症の摂食嚥下リハビリテーション」と題した野原幹司先生(大阪大学大学院歯学研究所准教授)のご講演を、江草正彦先生(岡山大学病院スペシャルニーズ歯科センター長・教授)の座長のもとで行いました。午後からは、言語聴覚士(時田春樹先生)、歯科衛生士(向井麻理子先生)および看護師経験の長いケアマネージャー(丸田康代先生)から臨床現場での対人援助論の応用についてご講演をいただき、総合討論を行いました。



熱気あふれるセミナーの様子

愛媛支部共催セミナー 「第21回『口から食べたい』セミナー」開催報告

愛媛支部 高橋徳昭
2017年10月22日(日)松前総合文化センターにて、伊予歯科医師会主催による標記セミナー(メインテーマ「安全に食べるには」)を開催しました。21号台風のさなか、参加者は多職種の方々を含め257名でした。

群馬支部主催研修セミナー・ シンポジウム開催報告

群馬支部 鎌田政善
2017年11月5日(日)に群馬県歯科医師会館(前橋)において、群馬県歯科医師会の共催と群馬県の後援をいただき、群馬支部主催のシンポジウムと講演会を開催いたしました。日曜日にもかかわらず、郡部の歯科医師会会長をはじめとして医療従事者や介護従事者など60名あまりの方々に参加していただきました。

シンポジウムは「多職種連携の現状と問題点一現場におけるそれぞれの立場から」と題し、歯科医師の稲川元明先生(高崎総合医療センター)、看護師の富山麻祐子先生(公立藤岡総合病院)、歯科衛生士の高坂陽子先生(前橋赤十字病院)、言語聴覚士の丹下弥生先生(老年病研究所附属病院)および管理栄養士の三井恭子先生(老人保健施設鬼石)の5名のシンポジストの方々よりご講演いただき、多職種連携の重要性と必要性について再確認することができ、さらにいくつかの問題点についても共有することができたと考えております。

また、基調講演として日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニックの菊谷 武教授より「地域における食支援一なにをどう食べるかを地域で共有するために」と題してご講演を賜りました。在宅療養者への地域における一貫した食支援の必要性が重要であると感じ取れる内容であり、今後増えるであろう在宅療養者への大切なアプローチであり、共感を得たとの意見を受講者からいただきました。

最後に菊谷教授・シンポジスト5名の方と受講者で質疑応答が行われ、盛況のうちに閉会となりました。



5名のシンポジストと講演中の菊谷 武教授(写真右下)